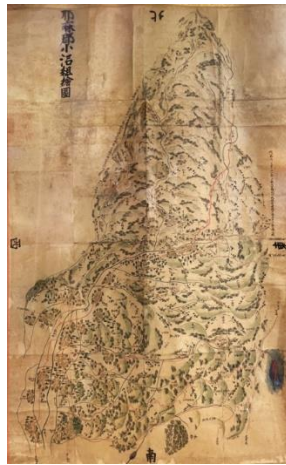


# 小沼組絵図かわら版



どうなった？

## 「小沼組絵図」

みなさん、こんにちは。上の写真が、五月末に修復に出した村指定文化財の「耶麻郡小沼組絵図」です。今までは松原歴史館に展示してありました。

「耶麻郡小沼組絵図」は、江戸時代の大塩・北山・熊倉(現・喜多方市)の様子が描かれた絵図です。縦約2メートル50センチ、横約1メートル30センチほどのかなり大きな紙に、各集落や地形の様子が詳しく書かれています。

この度、修復をお願いした、茨城県水戸市にある表具店「泰清堂(たいせいどう)」さんから修復の様子を写した写真が届きましたので、作業について質問しお答えいただきました。

## 泰清堂さんに聞いてみよう

-----以下、やり取りです(敬称略)-----

公民館：今回の一連の作業は裏打ち(うらうち)に関するものと聞いています。一体どのような作業なのでしょう？

泰清堂：今回の絵図のような紙資料は、このままではとても弱いのです。ですから裏側に紙を接着し、裏から支えて補強するとともに形を固定します。これを裏打ちといいます。裏打ちをしないと掛軸として掛けて鑑賞できませんので、必ず行う作業です。

公民館：①の写真は、紙をはがしているように見えますが何をしているのですか？

泰清堂：これは、絵図に貼られていた古い裏打ち紙をはがしているところです。霧吹きで湿り気を与えて、接着剤である糊をいよやかにゆっくりはがします。

全ての紙をはがすのに6時間かかりました。

また、楮(こうぞ)という和紙の繊維を含んだ紙が部分的に何層も貼られていました。

公民館：はがすのに気をつけたことはなんですか？

泰清堂：絵図の色が落ちたりにじんだりしないか、本体の紙をはがしたりしないか注意しながら作業しました。

公民館：②の写真、掛軸がバラバラになっています。

掛軸を直すとき、このように解体することはよくあることなのですか？

泰清堂：応急処置ではなく、今回のような本格的な修繕の場合、全てを解体して作業することはよくあります。

公民館：③の写真は、絵図の「仮裏打ち」という作業と伺いました。名前から想像すると「裏打ち」の前に行う作業かと思いますが、仮に裏打ちをしておくのはどうですか？

泰清堂：絵図の紙には、折れやシワが入っていますよね。そうした紙の状態を一度整理して整えるためです。また、掛軸に仕立てられてから長い時間が経って、ホコリやシミなどが溜まっています。仮裏打ちをすることで、そうした汚れのある程度取り除く効果もあります。

公民館：知らないことばかりで驚きました。注意力が求められる作業、本当に大変なことですね。詳しく教えていただきありがとうございます！



②掛軸全体が解体されたところ



①古い裏打ち紙をはがしているところ



③仮裏打ちされた小沼組絵図